

<シンポジウム>

乳幼児期から発育期の子どもの身体活動・スポーツ
ーガイドライン策定にむけてー

主催 日本学術会議 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会
共催 日本体育学会, 日本体力医学会 他
後援 舞踊学会、比較舞踊学会、(独) 国立健康・栄養研究所 他

日時 平成 20 年 3 月 18 日 (火) 13 : 00-17 : 00

場所 日本学術会議 講堂

<開催趣旨>

次世代を担う子どもの数を増やすことと、その子ども達の健全な育成は、我が国の重要施策になっている。また、それは、親や指導者達の人間としての願いでもある。解決しなくてはならない課題は様々あるが、中でも、身体活動を如何に活発化させるかは、「動く」ことを基本とする人間にとって極めて重要なことである。しかし、子どもの身体活動・スポーツ活動の質・量に関して、幼少期からの一貫した基準は示されていない。20 才から 69 才の国民に対しては、平成 17 年、厚生労働省は生活習慣病の発症予防のための身体活動・運動量・体力の基準（健康づくりのための運動基準-身体活動・運動・体力-）を策定した。本基準の対象にならなかった 19 歳以下の国民にとっても、身体活動・運動は多くの観点から必要であると考えられる。

そこで、本シンポジウムでは、特に幼児期から発育期の子どもの身体活動・スポーツのあり方について、多面的な科学的エビデンスを基に、子どもの運動ガイドライン策定に向けた議論を行うものとする。

<プログラム>

13:00 開会挨拶

加賀谷淳子（日本学術会議会員，日本学術会議 健康生活・科学委員会委員長，健康・スポーツ科学分科会委員長、日本女子体育大学名誉教授）

13:05 シンポジウム

座長 大築立志（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

田畑泉（日本学術会議連携会員、健康・スポーツ科学分科会幹事、
(独) 国立健康・栄養研究所健康増進プログラムリーダー）

13:10-14:30

第一部 子どもにとっての身体活動・運動・スポーツの現状と問題点

体力科学の観点から 小林寛道（東京大学教授、日本学術会議特任連携会員）

発育発達学の観点から 中村和彦（山梨大学准教授）

心理学的観点から 杉原隆（東京学芸大学教授、日本学術会議連携会員）

医学的観点から 岡田知雄（日本大学准教授、日本学術会議連携会員）

14:45-16:15

第二部 こどもの身体活動・運動・スポーツガイドライン

1. 諸外国の子どもの身体活動・運動ガイドライン

下光輝一（東京医科大学教授、日本学術会議連携会員）

2. 行政における子どもの身体活動・運動・スポーツへの取り組み

文部科学省の取り組み

鈴木 隆（文部科学省 スポーツ・青少年局 生涯スポーツ課長）

厚生労働省の取り組み

関 英一（厚生労働省 健康局 生活習慣病対策室長）

3. 子どもの身体運動ガイドライン試案

ー日本学術会議健康・スポーツ科学分科会からー

大築立志（東京大学教授、日本学術会議連携会員）

4. 総合討論(16:15～16:55)

連携学協会からの指定発言を含む総合討論

16:55

閉会挨拶 阿江通良（筑波大学教授、日本体育学会常務理事）

進行：田原淳子

（日本学術会議連携会員、健康・スポーツ科学分科会幹事、国士舘大学准教授）

参加費無料、事前申し込み不要、先着 300 名様まで。

場所；日本学術会議講堂 地下鉄千代田線乃木坂駅下車徒歩 3 分

東京都港区六本木 7-22-34

電話；03-3403-1091

連絡先；田畑泉

日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会幹事

（独）国立健康・栄養研究所健康増進プログラムリーダー

電話 03-3203-8061 E-mail: tabata@nih.go.jp